

1 学校教育目標 持続可能な社会の創り手となる 豊かな心と健やかな体を持ち、自ら学ぶ児童の育成 ～「気づき、考え、実行する」子ども～	2 本年度の重点目標 ①自分を見つめ他者を理解し、人や社会とつながろうとする子どもを育てます。 ②学習環境や学習教材を整えることで、学習意欲を高め、学習習慣が身に付く子どもを育てます。 ③思考ツールを活用した話す・聞く活動を通して、思いや考えを伝え合おうとする子どもを育てます。 ④「人に優しい言葉遣い」を徹底し、思いやりと節度ある行動ができる子どもを育てます。 ⑤授業や学校行事を通して、健康づくりに主体的に取り組む子どもを育てます。 ⑥よりよい学校生活をめざすため、課題に気づき、解決の方策を考え、実行する子どもを育てます。
--	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	適正な勤務時間を意識した校務等の効率化の促進	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進する。 ・教職員の時間外勤務の増加を抑え、通常及び定時退勤時刻の徹底を図る。 ・時間外勤務時間を月40時間以内とし、達成率を80%以上にする。 ・個人で設定した定時退勤時刻日の達成を、月4日以上にする。	・校内サーバー上での情報及び教材資料等の共有を行いやすいように、各分掌事務フォルダの構成を工夫して校務の効率化を図る。 ・各種会議内容の精選及び要点整理に努め、短時間集中型の会議(研修)を図る。 ・掲示板(ホワイトボード)を活用し、連絡事項と協議事項の分別を明確にする。 ・定時退勤日(16:45)及び通常退勤日(19:00)の実施、徹底を図る。各個人の業務遂行状況に応じて個人定時退勤日を設定し、一律一斉ではなく柔軟な活用を図る。	教頭	山田
①自分を見つめ、他者を理解し、人や社会とつながろうとする子どもを育てます。						
教育活動	○人権・同和教育の推進	人権感覚と実践力の向上	・自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを思いやったりすることができるようにする。 ・人に優しい言葉遣いができるようにする。	・人権・同和教育に関する研修を、児童生徒支援教員を中心に年数回実施する。うち1回は、6年生の部落史学習の授業研究会とする。 ・6年生の「人の生き方に学ぶ」(部落史・部落問題学習)につながる1～5年生の必須教材を通じて、全校で系統的に取り組む。 ・道徳の授業や人権集会を通して、児童の人権意識や感覚を磨いていく。玄関ホールに人権コーナーを設け、各学級の人権宣言や児童の感想等を掲示する。 ・人権の日集会やハートフル委員会活動を通して、児童に言葉遣いを意識させる。	人同教部	江川
教育活動	○個別の支援を要する児童の理解	不登校傾向のある児童に対する細やかな支援	・毎日、元気に登校できる児童の割合を高める。	・教育相談担当、養護教諭、担任などが連携して、不登校や孤立傾向にある児童の支援を行う。 ・定期的に心のアンケートを取り、児童の心理面の把握に努める。 ・のびっ子研や教育相談研を開催し、情報の共有と有効な対策について協議する。 ・サポートが必要な児童や保護者と面談し、必要に応じてSCやSSW、その他の外部機関との連携を図る。	人同教部	前田
学校運営	○特別支援教育の推進	教員の専門性の向上と、個に応じた細やかな対応	・児童一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な支援を行う。	・校内教育支援委員会を年間6回以上開催し、情報の共有を図る。 ・個に応じた支援方法を研修し、特別支援教育に対する見識を深める。 ・年度当初に個別の支援計画や指導計画を活用して共通理解を図り、個に応じた対応を行う。	特別支援教育担当	馬場 岩本
②学習環境や学習教材を整えることで、学習意欲を高め、学習習慣が身に付く子どもを育てます。						
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・授業後のふり返りの場を設定し、「わかった」「自分でできた」と自己評価する児童が80%以上になることを目指す。	・国語科の各単元終了後に授業の「ふり返りシート」への記入を実施し、自己の努力を自認したり達成感を味わったりすることで、次のステップに向かおうとする意欲を高める。	学習部	土井
教育活動	●学力の向上	学習習慣と学習意欲の向上	・「生活満点1週間」で80点達成の児童の割合を65%以上になるようにする。 ・声を出す喜びを味わうことで、人前でも自分の意見を言えるようになる。 ・学年の発達段階に応じた家庭での学習習慣づくりに取り組み、「家庭学習自己チェック」で「よくできた」と答える児童が80%以上になることを目指す。	・年3回、「生活満点1週間」の調査を実施する。1回目の結果から共通課題を見つけ、手立てを話し、2回目、3回目でも検証する。 ・さし人タイムの時に「詩の百選」を使う。2、3学期にたてわり交流会を設け、お互いに詩を聞きあい、振り返りシートを活用する。 ・「家庭学習の手引き(マニュアル)」を作成して保護者・児童への周知徹底を図るとともに、「家庭学習自己チェック」の実施を図る。	学習部	岩本 山崎
③思考ツールを活用した話す・聞く活動を通して、思いや考えを伝え合おうとする子どもを育てます。						
教育活動	●学力の向上	校内研究の推進及び指導方法の改善	・思いや考えを共に認め合い、高めあうことのできる児童を育成する。	・「単元を貫く計画」「グループ活動での輪番による役割分担」などを柱に、GWで出た意見をGWへつなげるための具体的方策を全校的な取組として研究を進めていく。 ・発達段階に応じた「児童司会型」授業を取り入れ、学習集団による主体的な意見交換(吟味・検討等)の場を授業の中に位置づけていく。 ・学力向上対策評価シートをもとにしたPDCAサイクルにより、12月の学習状況調査を県平均レベルにする。 ・研究主任と学力向上対策コーディネーターを両輪とした組織を確立し、児童の実態に即した指導法改善を推進していく。	研究部	鈴里 野中 谷口 山口
		読書活動の充実	・進んで読書に取り組む児童を育成する。	・朝の読書の時間をきちんと確保し、1日のスタートを落ち着いて始める。 ・読書ボランティアを活用し、読み聞かせを全ての学級で進めていく。 ・学年毎の目標冊数を決め、達成状況を知らせるなどして意欲の喚起を図る。	研究部	野中
④「人に優しい言葉遣い」を徹底し、思いやりと節度ある行動ができる子どもを育てます。						
教育活動	●心の教育	望ましい言葉づかいと無言掃除の習慣化	・人に優しい言葉づかいができるようになる。 ・無言で掃除をし、きれいで清潔な環境づくりができるようになる。	・生活委員会で「人に優しい言葉」集めの取組を行う。 ・生活だよりによる家庭や地域への啓発で人に優しい言葉づかいの輪を広げる。 ・掃除中に静かな音楽を流し、無言掃除を意識させる。 ・大掃除週間にチェックカードを利用して、よりよい掃除の仕方(おそうじ～さ・し・す・せ・そ)を身に付けさせる。	生活部	大園 馬場
		道徳教育の充実	・相手の立場になって、気づき、考え、行動できる児童を目指す。	・「特別の教科 道徳」について、道徳必須教材を中心に主体的・対話的な授業実践を研究実践する。 ・道徳教育推進教師を核として、年間カリキュラムの見直しを図る。 ・あらゆる教育活動を通して、人権教育・道徳教育の視点で、よりよい言動を振り返らせる。	研究部 道徳教育推進教師	山口
学校運営	●いじめ問題への対応	未然防止・早期発見・早期対応のシステムの充実	・「いじめは絶対に許さない」という方針の学級経営を目指すとともに、いじめの早期発見・早期対応ができるシステムを構築する。	・学級目標や担任の経営方針の中に人権の柱を設定し、いじめは絶対に許されないことを機会を捉えて指導する。 ・危機管理マニュアルを用いて、いじめの兆候があった際の組織的対応を共通理解しておき、生活指導協議会で情報の共有化を図る。 ・いじめ事案発生時には早急に「いじめ防止対策委員会」を開き、組織的に素早く対応する。	生活部	山本
⑤授業や学校行事を通して、健康づくりに主体的に取り組む子どもを育てます。						
教育活動	●健康・体づくり	運動習慣の改善や定着化	・学級や縦割り班で他者と関わりながら運動に取り組むことのできる環境をつくる。 ・児童が自ら目標をたて、進んで運動に取り組むことのできる活動を計画的に行う。	・体育委員会を中心として「スポーツチャレンジ」への参加を推進し、全校にも呼びかけていく。 ・なわとびタイムやマラソンタイムを実施する。 ・児童の発案をもとに、縦割り班対抗で長縄に取り組んだり、他学年が参加できたりするスポフェスなどを企画・実践する。 ・活動の足跡が記録できるカードや、意欲向上につながる掲示、放送でのよびかけなど、手立てを工夫する。	保体部	山下 田川
		望ましい生活習慣の形成	・12月の時点で、虫歯の処置完了児童の割合を60%以上にする。(前年度35%) ・好き嫌いをしないことと食事のマナーを柱に食育の充実を図る。	・歯磨きや虫歯治療に対する児童や保護者の意識を「ほげんだより」や掲示物等で高める。 ・歯科校医や歯科衛生士による虫歯予防の講話や歯磨き指導を実施する。 ・個別に受診勧告を促し、虫歯予防や虫歯治療へとつなげる。 ・「食に関する指導の年間計画」に基づき、各学年に応じた指導を確実に実践する。	保体部	前田 小宮
⑥よりよい学校生活をめざすため、課題に気づき、解決の方策を考え、実行する子どもを育てます。						
教育活動	○特別活動の充実	気づき、考え、行動する学級・学年集団の形成	・身近な課題に、学年や学級で取り組み、児童自身が解決策を考え、実行できるようにする。	・日常の中の課題を児童に投げかけ、「こうしよう」という指導から「どうするか」を考え、実践させる指導に転換する。 ・学級会は、年間計画表を参考に学年の実態に合わせて月に1回程度実施する。また学年の実態に合わせて、学期に1回は児童提案の議題とする。そこで決めた事を実施し、評価するサイクルにより、問題解決力を高める。	特活部	横田 常盤
		縦割り班活動の活性化	・縦割り班の遊びや掃除といった異学年交流の場において、児童の主体性や集団の一員としての意識、リーダーシップを高める。	・高学年では活動前に計画、役割分担の時間を設定し、リーダーとしての自覚を高める。また、しろうおタイムは、学期ごとに見直しをもって計画を立て、事前に全校に知らせる。 ・低・中学年では、協力的に参加する態度を養う。 ・感想や感謝の気持ちを書き、しろうお掲示板で交流する。 ・全校の児童が時間を意識して活動できるように、しろうおタイム活動前後の移動時間に音楽を流す。	特活部	坂井 前川

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目